

2005年3月8日

殺菌剤メトコナゾールの北米開発について

住友化学は、呉羽化学工業(株)（東京都中央区）と呉羽化学が発明した農業用殺菌剤であるメトコナゾールに関して、米国およびカナダにおいて芝、果樹、野菜分野で共同開発することを合意し、契約を締結いたしました。

当社は、農薬事業をコアビジネスのひとつと位置付け、その事業拡大に積極的に取り組んでいます。なかでも、今後需要の伸びが見込まれる果樹・野菜用途などの高付加価値分野に対し、優れた製品を投入していくことは重要な経営戦略のひとつであり、そのための新剤の開発に重点的に資源を投入しています。

北米は世界最大の農薬市場であり、当社にとっても重要な戦略市場で、現在子会社であるベーラント U.S.A. コーポレーション（米国カリフォルニア州、ウォールナットクリーク）を通じて事業を行っています。ベーラント社はこれまで芝、果樹、野菜などの分野で、殺虫剤、除草剤、植物生長調節剤を中心に販売してきましたが、今回、当該分野の各種重要病害に対し、既存剤に比べ広い殺菌スペクトルと優れた防除効果を持つメトコナゾールを新たに販売品目に加えることで、殺菌剤でも品揃えを充実させることとなります。これにより、戦略市場でのビジネス拡大を一層加速させてまいります。

今後、呉羽化学と共同で本剤の開発を推進し2008年の上市を目指すとともに、対象作物の一層の拡大を図る計画です。